

産業研究施設

産業・研究施設—007

施設名 — 北海道立栽培水産試験場

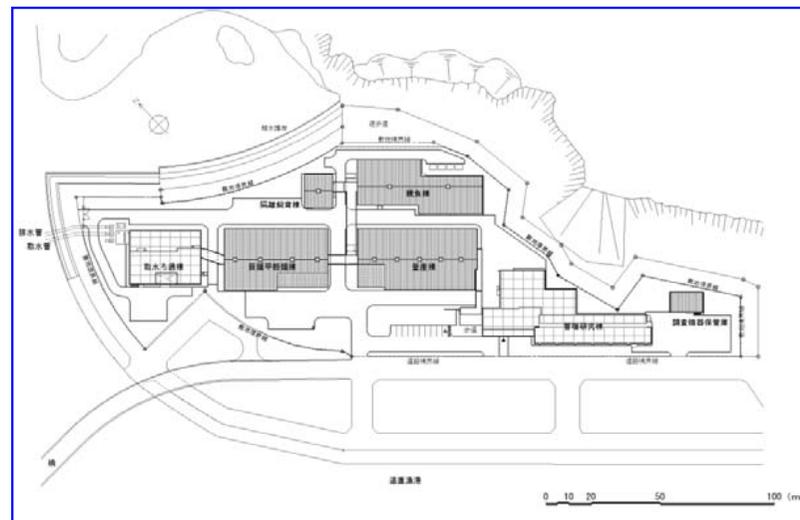
所在地 — 室蘭市舟見町1丁目156番3号

構造・規模 — 管理研究棟
RC造 3階建 2,874㎡

完成年月日 — 平成18年1月16日

基本設計 — (株)ドーコン

建築実施設計 — (株)ドーコン





【設計コンセプト】

本施設は、全道の栽培漁業研究の拠点であり、胆振・日高沿岸の水産試験場でもあります。本施設的设计テーマは、「長期にわたり良好な研究環境が確保される、地域の誇りとなる公共施設としての栽培水産試験場」です。栽培漁業に関する実験施設と研究・事務空間等の必要機能に対し、構造要件、実験内容など要望から7棟の施設としました。多様な機能/形状となりますが、シンプルかつ明解で、機能性と景観を両立させることを目指しました。なお、本敷地は水位の高い埋立地で、全ての施設を地上構造物としています。敷地中央に古い護岸がありますが、護岸本体を施設が跨がないよう配慮しています。

■施設整備方針

○ 自然環境及び省I初機への配慮

港湾地区の施設のため塩害や鳥害、風害などに配慮し、耐酸性被覆鋼板や汚染防止タイル、防風壁の設置などの各種対策を施し、機能保持を目指しました。さらに、海水のろ過、調温など必要なI初機が安定的かつ多量であることからガス・コージェネレーションを採用し、ろ過海水などの配水をイノフォームと名づけた設備ルートで建物間を最短で繋ぐなど、明確な施設作りとしました。

○ 景観への配慮

必要な機能が異なる施設が並ぶため、港の景観を水平線に求め、飼育関連の施設は、屋根面と壁の境界にできる水平線を施設の特徴として色調も屋根面を控え目の色調とすることで、施設全体のボリューム感を減じると共に、取水ろ過棟も上下に同様に色分けすることとしました。管理研究棟は、シンプルではありませんが、白色の防汚タイルとして清潔感と共に、機能の長期的保持を目指しました。

○ 長期的研究環境への配慮

各飼育棟の水槽は大きさ、形状共に多種多様であり、それら全てに水/湯/海水/ろ過海水/調温されたろ過海水/排水/電源など様々な配管が繋がることとなることから、これらの配管をまとめた「バルブラック」を計画的に並べ、研究内容の変化に対応できるようにもしています。

産業・研究施設-008

施設名 - 北海道栽培漁業伊達センター

所在地 - 伊達市長和町234-1

構造・規模 - S造 1階 6,216㎡

完成年月日 - 平成17年11月28日

基本設計 - (株)アトリエブノク

建築実施設計 - (株)アトリエブノク

土木実施設計 - (株)虎ノ門コンサルタンツ





【設計コンセプト】

本施設はえりも以西海域（南茅部町からえりも町までの地先沖合海域）における漁業振興を図るため、カレイの一種である「マツカワ」を対象魚種として計画された親魚育成・種苗生産・中間育成を行う中核施設です。安全かつ確実な運営を推進する施設とするため、以下に示す3つの「集約化」を行うことで施設構成を組み立てています。

■ 施設整備方針

○ 棟の集約化

これまでの同種施設では別棟としてきた各ゾーンを一体化しコンパクトな平面計画とすることで、作業動線の屋内化及びインフラ経路の短縮化を図るとともに、無駄な空地をつくらない効率的な土地利用計画としています。また、集約化から生まれた長大なスケール感や水平性を活かした伸びやかな外観デザインを考慮しています。

○ 動線の集約化

車両動線及び人の作業動線を各ゾーンの中央に集約し、飼育ゾーンの中央動線を主軸としながら、親魚、餌料培養、ナンノクロロフシスの3つのゾーンが取り付く明快な施設構成としています。主要な出入口は本体棟と濾過機械棟の間のエリアに集約し、管理のしやすさに配慮しています。

○ インフラの集約

排水以外の全インフラ（電気、海水、上水、温水、エア）のメインルートは作業動線上に設けた「インフラモール」に集約しています。このインフラモールは採光、換気の機能も併せ持ち、本体棟と濾過機械棟とを接続する施設の主骨格となっています。インフラの隠蔽部分を無くし顕在化させることで、メンテナンス性を向上させながら、見学者にも施設のしくみがわかりやすい構成としています。



産業・研究施設-009

施設名 — 北海道栽培漁業えりもセンター

所在地 — 幌泉郡えりも町字大和1086番地

構造・規模 — S造 平屋建 1,517㎡
一部RC造 2階建 174㎡

完成年月日 — 平成18年3月24日

建築実施設計 — (株)アトリエバンク

土木実施設計 — パブリックコンサルタント(株)

【設計コンセプト】

本施設は、えりも以西海域（南茅部町からえりも町までの地先沖合海域）における漁業振興を図るため、カレイの一種である「マツカワ」を対象魚種として計画された親魚育成・種苗生産・中間育成を行う施設のひとつです。メインセンターとなる伊達センターを補完するサブセンターとして、えりもセンターは整備されました。伊達センターと同様に「集約化」を行うことで施設構成を組み立てています。

■施設整備方針

○棟の集約化

RC造となる濾過棟以外の各ゾーンを一体化しコンパクトな平面計画とすることで、作業動線の屋内化及びインフラ経路の短縮化を図るとともに、無駄な空地をつくらない効率的な土地利用計画としています。

○動線の集約化

車両動線及び人の主要作業動線を飼育ゾーンの中央に集約し、濾過棟へとつながる動線と合わせ、明快的な施設構成としています。

○インフラの集約

排水以外の全インフラ（電気、海水、上水、温水、エア）のメインルートは作業動線上に設けた「インフラモール」に集約しています。このインフラモールは採光、換気の機能も併せ持った施設の主骨格としています。



産業・研究施設-O10

施設名 — 北海道立水産孵化場道東支場

所在地 — 標津郡中標津町円山3丁目
1番地10

構造・規模 — CB造 一部S造 346.09㎡

完成年月日 — 平成16年6月25日

建築実施設計 — (株)岩見田設計

土木実施設計 — 和光技研(株)



【設計コンセプト】

○ 自然地形を活用した配置計画

敷地は、中標津町民の憩いの場「緑ヶ丘森林公園」や「ユメの森公園」、さらには円山小学校・中標津中学校等の文教地域に隣接し、緑溢れる孵化場として恵まれた環境に位置しています。

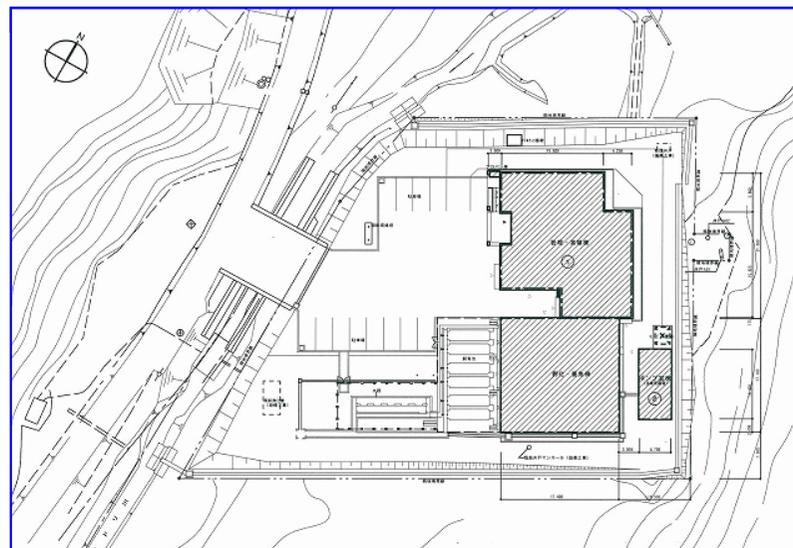
そこで自然の地形を活用し、水源からの湧き水の流れを軸とした配置計画を行いました。

また、水源から室内の孵化飼育室、養魚室、屋外の飼育池と水の流れを造り出し、見学者への展示水槽等の配慮を行いました。

○ 居住環境と省エネへの配慮

管理実験棟は道東の厳寒期対策として外断熱工法を採用し良好な室温環境をつくり出しています。

また、環境への配慮や湿気を排除しての確保のためにフラットスラブ工法を提案しております。



医療施設

医療施設-O11

施設名 - 北海道立羽幌病院

所在地 - 苫前郡羽幌町栄町110番地

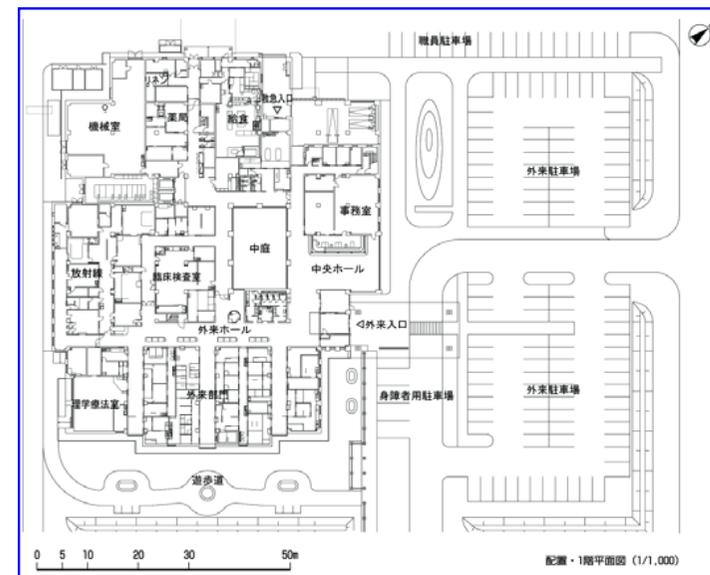
構造・規模 - RC造 一部S造 4階建
8,697㎡

完成年月日 - 平成17年1月31日

基本設計 - (株)北海道日建設計

建築実施設計 - (株)北海道日建設計

土木実施設計 - 和光技研(株)





【設計コンセプト】

羽幌町は北海道の北西部の日本海に面した人口8,200名余りの町です。比較的温暖な気候で天売・焼尻の二つの離島を含んでいます。

道立羽幌病院は羽幌町唯一の病院です。昭和28年羽幌町から道に移管され、以来50年余り地域医療に貢献してきました。診療科の増設や病床増に対応するために、これまで数度の増改築を繰り返してきましたが、既存病院施設の老朽化と高度医療に対応するために隣接地に移転新築しました。

敷地は、羽幌町市街地の南西に位置し、閑静な住宅街に接しています。敷地東側には既存病院、町立特別用者老人ホーム・ティサービスセンターなどがあり、敷地南側と東側は町道に接し、南側南6条通りは町中心部及び国道232号線に通じる幹線道路になっています。

■施設整備方針

○ 地域医療に貢献する病院

建物は4階建とし、来院者の利便性やバリアフリーを主体に考え、全ての外来部門や検査・診療部門などは1階に配置しました。病床数は、2看護単位の一般120床、診療科目数は12。

○ アメニティある病院

施設中央にはライトコート（中庭）を設け、来院者にわかりやすい病院を目指しました。土地柄、日本海と山からの風が強く吹くことから玄関は風下に設け、大きな庇に接するようにカバードウォークを設けた歩道面にはヒーターを敷設しました。

○ 運営コストのかからない病院

外装の基壇部は、親しみやすく耐久性にすぐれたレンガ積み、高層部棟外壁はPC版とし、共に外断熱工法を採用しました。外装建具も、断熱サッシュ+Low-eガラスで高断熱型とし、寒さ対策と共にエネルギーコストの削減を目指しました。病院への交通手段は、ほとんど自家用車に頼ることになるので、駐車台数は160台を確保しました。



【設計コンセプト】

北海道の小児医療と障害児療育を総合的に進めるため、既存の2つの施設(小児総合保健センター、小児療育センター)を一体的に整備し、高度で専門的な医療と療育機能の充実を目指しました。手稲山・石狩湾の自然や周辺の保健福祉ゾーンと住宅街があることから、建物から受ける威圧感の軽減と周辺環境との調和を目指し、建物全体を4層に低く抑え、傾斜地である敷地から一部を地中に埋めました。また、1層3看護単位のブロックを素直に表わし、建物全体を小ぶりに見えるようにしました。また、外壁には北海道らしさを表現する道内産のレンガを使用し、外部には「家」の周りの街路となる「周遊路」を、「芝生広場」、「遊具」とともに整備しました。

■施設整備方針

○階層・平面構成

子ども病院を訪れる患者や付き添い家族は荷物が多いので、その来院者が無用な動きを少なくできるように、階層・平面構成を考えました。地下1階には駐車場を組み入れ、積雪時や悪天候時の乗り降りの負担を軽減しています。1階には外来階として正面玄関、診察室や検査室といった一般来院用としてまとめました。2階は療育部門として、療育訓練を中心に入所・母子病棟を配置し、この入所病棟と前面道路を挟んだ養護学校とは連絡ブリッジでつなぎ、段差なしで通学を可能としています。3階は小児医療部門の病棟階とし、中心には手術部門を配置し、4階にはヘリポートを配置しました。

○癒し空間への工夫

癒しの環境づくりとして、内外の主要な空間にアートワークを配しました。道内作家を中心に木工芸による作り手のぬくもりを感じる作品と、ワークショップによる子どもたちが参加した切り絵をモチーフとした作品による構成とし、子どもたちに優しい空間づくりを目指しました。

医療施設-013

施設名 — 北海道立衛生学院留萌学習センター

所在地 — 留萌市東雲町2丁目16番地

構造・規模 — RC造 2階建 1,244.52㎡

完成年月日 — 平成18年3月20日

基本設計 — (株)中原建築設計事務所

建築実施設計 — (株)若見田設計

設備実施設計 — (株)大洋建築設備研究所

土木実施設計 — ダイシン設計(株)

【設計コンセプト】

看護職員の安定的な確保と資質の向上を図ることを目的に、長年就業している准看護師が看護師の資格を得るため、遠隔地からでも履修できるような宿泊施設を併設する看護師通信制教育施設が留萌市立病院敷地内に整備されました。

○ 配置計画への配慮

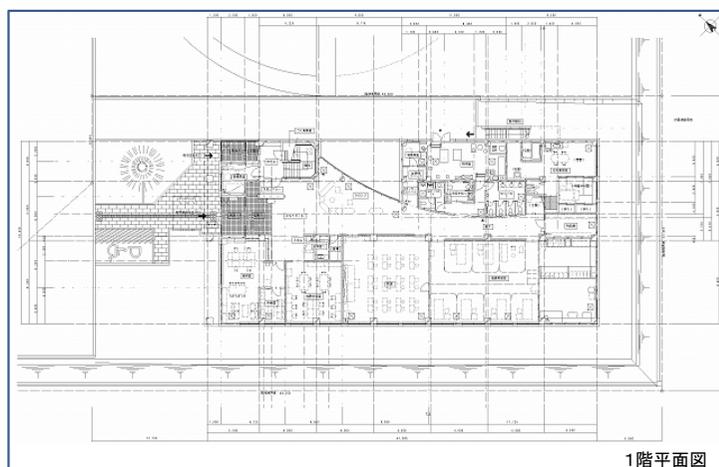
配置は、既存病院の夜間・救急玄関からのアクセスラインを“病院との連絡軸”、リハビリテーション外部庭園とのつながりを“教育施設の展開軸”と明かなゾーニングとしました。ファサード全面には駐車場と緑のオープンスペースを整備し、既存庭園空間と一体的で広がりのある屋外空間としました。

○ 明かな建物計画と視覚的な配慮

1階は教育施設、2階は宿泊施設と、1フロアで展開する明かな構成としました。共有空間では、直線的な単純さを感じさせない壁間の視覚的な工夫や、採光や通風等、自然エネルギーを有効に利用出来るよう光庭の位置等について配慮しました。また、外断熱工法により内壁は躯体現しを基本とし、メンテナンスの容易性とコスト縮減にも配慮しました。

○ 地域環境への配慮

沿岸地域に対する配慮として、風対策、冬期間の雪の吹き溜まり対策等外壁面の複雑さを避けるよう開口部に配慮し、施工性やコストの縮減、メンテナンスの容易性等、総合的な見知から、長期的な視野にたち、時の経過と共に価値を増すような、高耐久性素材として道産のレンガ素材外断熱工法を採用しました。



1階平面図



2階平面図

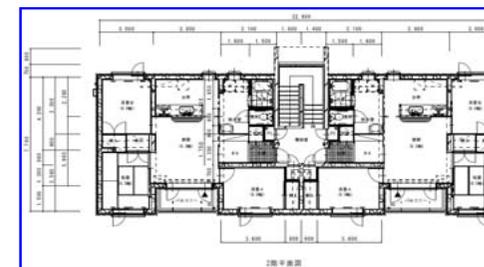
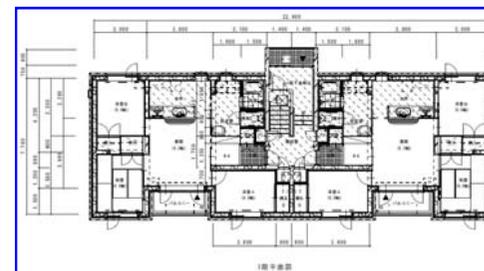
医療施設-014

施設名 — 北海道立羽幌病院職員公宅
所在地 — 苫前郡羽幌町栄町110番地
構造・規模 — CB造 2階建 332.14㎡
完成年月日 — 平成17年3月11日
建築実施設計 — (株)松本設計事務所

【設計コンセプト】

間取りは3LDKの共同住宅(4戸)

- 景観への配慮
隣接される病院との関連性、統一性を考慮したデザインとしました。



医療施設-015

施設名 — 北海道立ウトロ診療所及び医師宿舍
所在地 — 斜里郡斜里町ウトロ東25-1
構造・規模 — RC造 2階建 258.12㎡
完成年月日 — 平成17年2月28日
建築実施設計 — (株)ホルス

【設計コンセプト】

ウトロ地区唯一の診療所として、医療サービスのみではなく、地域のコミュニケーションの場として『緩やかなランドマーク』をコンセプトとした建物としました。

